

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山梨英和大学
設置者名	学校法人 山梨英和学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
人間文化学部	人間文化学科	夜・通信		6	14	20	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/u_graduate/cur/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山梨英和大学
設置者名	学校法人 山梨英和学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/organization_chart/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	他法人 大学専任講師	2025. 5. 23 ～2027 年度 最初の定時 評議員会	校務をつかさどり、 所属職員を統督す ると共に学務を総 理し、山梨英和大学 を代表する。
常勤	他法人 大学特任教授	2024. 4. 1 ～2026 年度 最初の定時 評議員会	校務をつかさどり、 所属職員を監督す ると共に山梨英和 中学校・高等学校を 代表する。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山梨英和大学
設置者名	学校法人 山梨英和学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画(シラバス)については、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法、履修上の注意、授業時間外学修、学修に対するフィードバック方法等の項目について作成する。 授業前年度12月にシラバス作成ガイドラインに基づき依頼し、3月にかけて各担当教員が作成する。3月中旬の教員相互シラバスチェックにて15項目について確認、修正後、3月下旬に新年度シラバスとしてWebシステムにて公表している。	
授業計画書の公表方法	学務システムにて作成しWebシステムにて公表 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/u_graduate/cur/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業における単位認定は、シラバス記載の到達目標をもとにレポートや試験など複数の成績評価項目に基づき各授業担当者が成績評価を行い単位認定する。また、単位認定に異議がある学生は、異議の申立てを行い、担当教員が、必要に応じ、成績の見直しを行うことにより、適切性を担保している。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。		
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)		
成績評価における客観的指標として GP 及び GPA を設定している。 GP・GPA の算出方法は「履修マニュアル」に掲載し、学生への周知を行っている。 単位認定と併せ前期末、後期末の年に 2 回 GPA 計算を実施している。		
・成績は 100 点満点で、60 点以上が合格となり、評価基準は次のとおりとしている。		
判定	評価 (レターグレード)	点数
合格	A	90～100 点
	B	80～ 89 点
	C	70～ 79 点
	D	60～ 69 点
不合格	F	0～ 59 点
	W	履修中止
・GP (グレードポイント) は素点をもとに次の式で算出している。		
$GP = \frac{\text{score} - 50}{10}$		
ただし、不合格 (F 判定) の場合はすべて GP=0 とする。		
また GPA (グレードポイントアベレージ) は、履修した科目の GP に単位数を乗じた値の合計を総登録単位数で除し、5.0～0.0 の間で算出している。		
$GPA = \frac{(\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{総登録単位数}}$		
客観的な指標の 算出方法の公表方法	・当該年度の履修マニュアルにて GP・GPA の算出方法を公表 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/pb/#pb4 ・大学 Web サイトにて成績の分布状況を公表 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/publication/publication/	
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。		
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)		
4 年次 3 月に卒業判定のための教授会を開催し、以下の卒業要件修得について審査し、卒業判定を行っている。 必修科目 34 単位、選択必修科目 6 単位、卒業要件 124 単位以上 次のとおりディプロマポリシーを定め、大学 Web サイトで公表している。 「人間文化学」のカリキュラムにおいて所定の単位を修めることにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。		
1. 人間文化学に関わる幅広い教養と体系的な知識を修得し、多面的・論理的な判断に基づいて課題解決に取り組むことができる。		
2. 他者を理解しながらさまざまな手段で自らの考えを表現し、円滑なコミュニケーションをはかることができる。		
3. 多様な文化や価値観を受け入れ、キリスト教教育によって培った倫理観をもって地域社会の発展に貢献できる。		
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 Web サイト及び学生配付の「履修マニュアル」にて公表 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/idea/mission/	

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山梨英和大学
設置者名	学校法人 山梨英和学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/financial/
財産目録	https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/financial/
事業報告書	https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/financial/
監事による監査報告(書)	https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/houjin/cat/financial/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学 Web サイトに公開 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/publication/jikohyouka/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学 Web サイトに公開 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/publication/jikohyouka/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間文化学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/mission/ ）
（概要）山梨英和大学は、真に国際的な大学となることを目指しています。それは、様々な国や地域から学生を受け入れることだけではありません。本学は、国籍や民族の違いを超えて、常に国際的な視点でものを考えるとともに、自らの立脚点をしっかりと見据えて地域社会と密接に連携しつつ、キリスト教精神に根ざした深い人間理解のもとに、世界の平和と安定のために活躍する人材を輩出することを目指します。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/idea/mission/ ）
（概要）「人間文化学」のカリキュラムにおいて所定の単位を修めることにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。 1. 人間文化学に関わる幅広い教養と体系的な知識を修得し、多面的・論理的な判断に基づいて課題解決に取り組むことができる。 2. 他者を理解しながらさまざまな手段で自らの考えを表現し、円滑なコミュニケーションをはかることができる。 3. 多様な文化や価値観を受け入れ、キリスト教教育によって培った倫理観をもって地域社会の発展に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/idea/mission/ ）
（概要）1. 1・2年次で中心的に学ぶ基礎科目群では、キリスト教の精神を学ぶ科目、自己理解・他者理解のための科目や地域社会を理解するための科目に加え、人間文化を理解するための基盤となる創造性・協調性・コミュニケーション・ICTなどの高度な活用能力（フルーエンシー）を実践的に身につけます。 2. 2・3年次では修得したフルーエンシーを基盤とし、人間文化学を形成する下記の3つの専門領域を体系的に学びます。 サイコロジカル・サービス領域：「こころ」を理解し「ひと」を支える心理の専門家をめざす グローバル・スタディーズ領域：グローバルな視点から日本と世界を見つめ、真の国際人をめざす メディア・サイエンス領域：ICTを駆使して新たな価値を創造するクリエイター、イノベーターをめざす 3. 3・4年次では、「専門ゼミナール」や「卒業プロジェクト」などに代表される、専門領域を深く追究する科目を学ぶとともに人間文化学を横断的に学ぶための領域融合科目を学びます。 4. さらに、4年間をとおして幅広い教養を身につけたり、自己を磨いたりするための科目として「オープン科目」を設けています。 またキャンパスの内外を学びのフィールドと位置づけ、学外での学修活動を推進すべくクォーター制とセメスター制を併用します。授業においてはアクティブラーニングを積極的に取り入れ、カリキュラム全体でフルーエンシーを醸成するようになっています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイト、募集要項）
（概要） 山梨英和大学は、「敬神（神を敬い）、愛人（人を愛し）、自修（自らを修める）」を校訓としています。キリスト教精神に基づく建学の精神に由来するこの校訓と今という時代における大学のあり方に対して真摯に向き合い、地域に根ざした大学として教育・研究活動を行っています。本学では次のような学生を積極的に受け入れます。

1. 奉仕の心をもって、地域や国、さらには世界の発展に貢献したいと考えている人
2. 文化や言語のちがいを越えて他者を理解し、ともに学ぼうとする意欲をもつ人
3. 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域はもちろんのこと地球規模の課題にも積極的にチャレンジする人
4. 本学の学習に対応できる基礎的な学力を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：山梨英和大学について
<https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
人間文化学部	－	9 人	7 人	7 人	2 人	人	25 人
その他	－	人	人	1 人	人	人	1 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		54 人					54 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/overview/teacher_profile					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
F D／S D推進委員会を中心に、授業の実施方法・学生サービスの向上・教員の研究推進について研修を行っている。2026年度F D研修会の年間実施計画としては3回程度予定している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間文化学部	155 人	123 人	79.4%	640 人	519 人	81.1%	10 人	9 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	155 人	123 人	79.4%	640 人	519 人	81.1%	10 人	9 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間文化学部	124 人 (100%)	11 人 (8.9%)	97 人 (78.2%)	16 人 (12.9%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	124 人 (100%)	11 人 (8.9%)	97 人 (78.2%)	16 人 (12.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 京都大学大学院・信州大学大学院・山梨英和大学大学院・山梨県庁・山梨県警察・東京海上日動火災・損保ジャパン・山梨中央銀行。旭陽電気・アドバンステクノロジー・NEC プラットフォームズ・キャノンアネルバ・ALSOK・星野リゾートマネジメント・山梨県厚生連				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
人間文化学部	144 人 (100%)	103 人 (71.5%)	14 人 (9.7%)	27 人 (18.8%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	144 人 (100%)	103 人 (71.5%)	14 人 (9.7%)	27 人 (18.8%)	人 (%)
（備考）留年者については就学意欲の低下が主な理由となっている。 中途退学者については進路変更、健康上の問題等が主な理由となっている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画については、シラバスにて授業概要、到達目標、授業計画、成績評価の方法、履修上の注意、授業時間外学修、学修に対するフィードバック方法等の項目について作成し明示している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）各授業における単位認定は、シラバス記載の到達目標をもとにレポートや試験など複数の成績評価項目に基づき各授業担当者が成績評価を行い単位認定する。また、必要に応じて成績異議申立制度に基づき学生と相互確認し単位を確定する。
 成績評価における客観的指標として GP 及び GPA を設定している。単位認定と併せ前期末、後期末の年に 2 回 GPA 計算を実施している。活用事例としては前学期の GPA に応じた履修単位の登録上限や奨学金等の学内選考、3 年次への進級要件として使用している。
 卒業認定については、ディプロマポリシーに基づき 4 年次 3 月に卒業判定のための教授会を開催し、以下の卒業要件修得について審査し、卒業判定を行っている。
 必修科目 34 単位、選択必修科目 6 単位、卒業要件 124 単位以上

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	人間文化学科	124 単位	有・無	半期標準 20 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/pb/#pb4		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/publication/publication/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/guide/campus/map>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間文化 学部	人間文化 学科	700,000 円	150,000 円	460,000 円	教育充実費《年間：340,000 円》 休学の場合は在籍料のみ徴収 （年間：120,000 円）
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 日本学生支援機構の給付型奨学金採用候補者については、受験する選抜区分の出願時に、採用通知（進学先提出用）の写しを提出することを条件に、入学金及び前期分授業料の納入時に、給付奨学金を差し引いた金額で学費等を請求している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要）1 年時には、必修の基礎ゼミにて、キャリア教育を実施している。1 年時以外にも、1～3 年生の希望者を対象にしたフリーのインターンシップへの参加をサポートしている。3 年生の後期から全員個別面談を実施し、卒業後の進路希望を確認することで就職活動に向かうための個別支援を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要）保健室に保健師 2 名、学生相談室に臨床心理士・公認心理師 4 名を配置し、アドバイザー教員を中心に連携して学生支援等を行っている。両室では学生生活上の様々な相談を学生から受けており、教職員からの紹介や、状況により保護者からの相談にも応じている。教職員向けには月 1 回話し合いの場を設け、学生の現状理解と対応方針の共有を図っている。障害学生支援室では、学生からの申請に基づき学内関係者と連携・協働しながら合理的配慮提供の調整を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：教育研究上の基礎的な情報 https://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/publication/publication/
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F119310105725
学校名 (〇〇大学 等)	山梨英和大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 山梨英和学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		106人（ 40）人	104人（ 48）人	110人（ 88）人
内 訳	第Ⅰ区分	40人	31人	
	(うち多子世帯)	(— 人)	(— 人)	
	第Ⅱ区分	21人	23人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(— 人)	
	第Ⅲ区分	— 人	15人	
	(うち多子世帯)	(— 人)	(— 人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11人	— 人	
	区分外（多子世帯）	25人	26人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0）人
合計（年間）				110人（ 88）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	1人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	1人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	1人	人	人
計	3人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	1人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	1人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	11人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。